

# 幼児期の発達障害

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所  
久保山 茂樹

# 幼児期に特別な支援が必要な子ども

- 生後すぐに診断が確定した子ども
- 乳幼児健診で障害が予測された子ども
- 当初「気になる子ども」として気付かれ次第に、支援の必要性が明確になる子ども
  - ・不器用である
  - ・落ち着きがない      集中できない
  - ・突然あばれる      かつとしやすい
  - ・友だちに手を出す      大声を出す      …

# 気になる行動には理由がある 子どもが困っているかもしれない

落ち着きがない

→ すべての刺激に反応してしまい、  
情報を選択することが難しい

突然イライラして暴れたりする

→ 不器用さがあって、  
最後までやり遂げることが難しい

友だちに手が出てしまう

→ 話し言葉の理解が難しく、  
コミュニケーションが難しい

# 発達障害の考え方で想像し支援を試みる

- 生まれながらにある、発達の特徴
  - ・子どものわがままや育て方のせいではない
- 特有の感性がある
  - ・見え方、聞こえ方などが異なっている可能性

- ◆ 乳幼児期には、**確定診断は難しい**
  - ・本人の暮らしにくさや学びにくさを想像
  - ・「診断があれば支援する」ではなく、まず、子どもの姿から考えた、保育の工夫を

- 視力は正常・・・しかし
  - ・見えにくい、違う場所を見てるかもしれない
- 聴力は正常・・・しかし
  - ・聞きにくい、音声だけでは理解できないかもしれない
- 知的発達 は年齢相応・・・しかし
  - ・刺激に敏感、状況が変わると困るかもしれない

「 かもしれない」と想像して試してみる

診断がなくても保育者の経験が活用できる！

- ・落ち着きのない時は？
- ・話し言葉では理解してもらえない時は？



背景に余計な刺激がなく集中しやすい



# 注目すべきところをわかりやすく示す



# 見やすく、間違いにくい位置に貼られた名札





# 文字と写真でわかりやすく示す



- 視力は正常・・・しかし
  - ・見えにくい、違う場所を見てるかもしれない
- 聴力は正常・・・しかし
  - ・聞きにくい、音声だけでは理解できないかもしれない
- 知的発達 は年齢相応・・・しかし
  - ・刺激に敏感、状況が変わると困るかもしれない

「 かもしれない」と想像して試してみる

診断がなくても保育者の経験が活用できる！

- ・落ち着きのない時は？
- ・話し言葉では理解してもらえない時は？



# 「こういう条件が整えばうまくいく」を探る

## ■ 発想の転換

「どうして できない！」 から

「 できるのはなぜだろう？」 へ

例えば…

「私たちが、集中できるのはなぜだろう？」と考えれば

どうしたらうまくいくか、具体的な工夫が  
考えられる、知恵が出し合える。

# こういう条件を整えばうまくいくかもしれない

## 1. 子どもに伝わる「ことば」を使おう

### ◆音声のことば 【音・音声で通じ合う】

泣き声 叫び声 喃語

音声言語

### ◆視覚のことば 【見ることで通じ合う】

実物 写真 絵

文字

(適切に使うと有効)

### ◆動作のことば 【身体の実現で通じ合う】

触れる 揺さぶる 表情 身体表現

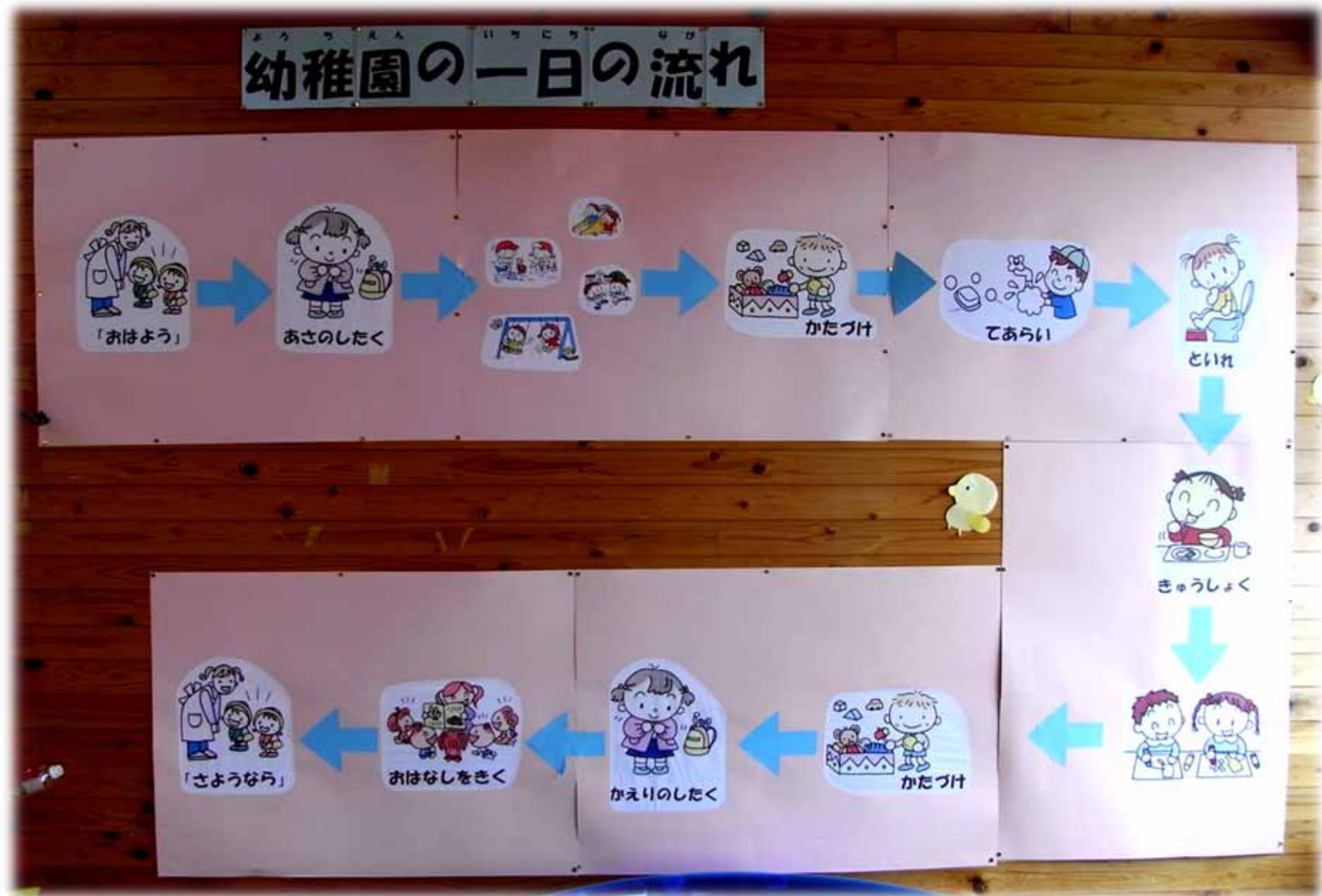
(コミュニケーションの基礎)

## 2. わかりやすい予告で見通しを持ってもらおう

### ■ 見通しがあると安心！

- ・全体への声かけ + 個別のひと声
- ・1日の流れを掲示
- ・時計を意識する
- ・行事では、プログラムに印をつけていく

# 1日の流れを示す いま何をする時？ 次は？





今日の予定を・・・

- ・時計の針の形で時刻を知らせる
- ・絵や文字を使って活動内容を伝える

### 3. 「居場所」を作ろう

居場所の基本は、クラスだけれど…

- ・「まず、これをしたら落ち着く」
- ・「あの先生のそばが落ち着く」
- ・「あの場所が落ち着く」

を認めることが必要な子どももいる。

少なくとも1日1回は、クラスの大切な一人という  
「時間」や「ことばかけ」を！





集団で活動することに疲れた時、  
ちょっと一休み！

教室の中の  
お一人様コーナー  
絵本が読める  
(常時設置)



## 4. 活動内容をわかりやすくしよう

- 机に出すもの、すべきことを明確にする
- 「その場に居る」「見ている」も立派な参加  
その子が流れにのってきた時がチャンス！



## 5. いま ここ の子どもを認めよう

- 「できる - できない」「 - ×」ではない、  
子どもへのまなざし・言葉かけ  
いいなァ！ 好きだなァ！ おもしろいなァ！
- できない自分をさらけ出せる、SOSが出せる
- いま持っている力で、何ができるだろうか？  
何が楽しめるだろうか？
- 比べる相手は、他児ではなく以前の本人

# ひとりひとりを大切にする保育



# 「気になること」ばかり気にしていると

「気になること」にかくれてしまっている

良さ、得意分野、ともに楽しめそうなこと

その子が役立つことを見つける、楽しむ・・・

→ 担任だからこそ 忘れがちですね



## ■ 子どもたちは・・・

- ・評価されるために登園しているのか？
- ・できないことをできるようにするためにだけ、  
生きているのか？
- ・訓練するために生まれてきたのか？

全てが特別なことではない！  
子どもが困っているかもしれないという視点で  
保育内容・方法や環境を見直す

幼稚園・保育所全体の落ち着き・笑顔



全ての子どもが  
過ごしやすい、学びやすい環境



支援の必要な子どもが  
過ごしやすい、学びやすい環境

# 幼児期の発達障害

終わり

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所  
久保山 茂樹

この研修講義では「特別支援教育研修講座」の資料を使用しています。